

Rasumofsky

ウィーン・ラズモフスキー
弦楽四重奏団 東京公演〈2〉

Quartett, Wien



渡邊 清香 (フルート)



宮下 朋子 (ピアノ)



福村 麻矢 (ピアノ)



photo: Nancy Horowitz

モーツァルト フルート四重奏曲 二長調 KV285 《Fl. 渡邊 清香》
W.A. Mozart: Flötenquartett D-Dur KV285

シューマン ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品 44 《Pf. 宮下 朋子》
Robert Schumann: Klavierquintett Es-Dur Op.44

ドヴォルジャーク ピアノ五重奏曲 イ長調 作品 81 《Pf. 福村 麻矢》
Antonin Dvořák: Klavierquintett A-Dur Op.81

2011.11月17日《木》19:00 開演 (18:30 開場)
東京オペラシティ リサイタルホール

京王新線「初台」駅下車、東京オペラシティ
出口より徒歩2分 / 03-5353-0789

全自由席 ¥4,500 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。

前売◎ソレイユ音楽事務所 03-3863-5552 東京オペラシティ チケットセンター 03-535-9999
Web 「チケットの王様」 <http://www.soleilmusic.com>

主催■ソレイユ音楽事務所 03-3863-5552 <http://www.soleilmusic.com> 後援■オーストリア大使館・月刊「音楽現代」

Rasumofsky Quartett, Wien

フルーティスト & ピアニスト

Flutist & Pianists

渡邊 清香

Sumika Watanabe, Flutist

桐朋学園芸術短期大学芸術科音楽専攻卒業。09年ウィーンにてギュンター・フォークグマイヤー氏に指導を受ける。10年アドリアン・コックス氏と共演。共演者のコックス氏から豊かな音楽性を高く評価される。成田国際空港ターミナルコンサートに出演する等様々な演奏会に出演。また、演奏活動を行う傍ら後進の指導にもあたっている。

これまでにフルートを相澤政宏、糸井正博、神田寛明、北村薫の各氏に、室内楽を野口千代光、小泉浩の各氏に師事。またヴァンサン・リュカ、ハンスゲオルク・シュマイザー両氏のレッスンも受講している。

宮下 朋子

Tomoko Miyashita, Pianist

桐朋学園短期大学部芸術科音楽専攻卒業、同専攻科音楽専攻修了。卒業演奏会に出演。第11回日本クラシック音楽コンクール一般の部審査員特別賞受賞、他数々のコンクール・オーディションで入賞。03年東京にてソロリサイタル開催。05年ドイツ国際夏期音楽アカデミー、09年ウィーン春期音楽セミナーに参加、同年秋にウィーン・ラズモフスキー弦楽四重奏団とドヴォルジャークのピアノ五重奏曲を共演。10年A. コックス氏 (pf) とラフマニノフの2台ピアノの為の組曲第2番を共演。現在後進の指導を行う傍ら、ソロや室内楽で活動を行っている。今までに室内楽を金木博幸氏に、また多喜靖美、清水醍輝、篠崎由紀各氏のマスタークラスで研鑽を積む。これまでピアノを高木茉莉、多喜靖美の各氏に師事。

福村 麻矢

Maya Fukumura, Pianist

相愛大学音楽学部器楽科卒業後、ウィーン市立音楽院に入学。1998年ディプロムを得て卒業。1999年からアメリカ、ベイラー大学よりアシスタントフェローシップを受け同大学院音楽学部にて学ぶ。2001年5月修士課程修了。第1回コアノイブルク国際ピアノコンクール第3位入賞。平成13年度・大阪文化祭奨励賞受賞。01年10月東京・大阪での帰国記念リサイタル以来、U. ダンホーファー (Vn)、A. スコッチ (Vc) の両氏とのピアノトリオ、ウィーン・ラズモフスキー弦楽四重奏団との共演の他、宝塚市交響楽団定期演奏会、ブルガリア・プレーベンフィルハーモニックオーケストラ定期演奏会に出演、近藤浩平氏作曲のピアノ協奏曲をP. フェッラーラ指揮のもと関西フィルハーモニー管弦楽団と初演するなど幅広く活動している。

ウィーン・ラズモフスキー弦楽四重奏団

Rasumofsky Quartett, Wien

軽めの弓圧で清澄に奏される各パートは互いに聴き合わされ、常に調和と均衡の中にある。

このようにして描き出されるのはまさしく作品そのもの。大作曲家たちが生活し、幾多の名曲が誕生した土地の歴史を背負う彼らの誇りと、練達の技量への自信が為せるわざだろう。

工藤 一郎 (音楽現代 2008年2月号より抜粋)

2001年に結成された「ウィーン・ラズモフスキー弦楽四重奏団」は今年結成10周年を迎える。これまで5回の来日では全国各地で公演を行い、その調和のとれた音楽で観客を魅了し、室内楽の楽しさ、素晴らしさを伝え、絶賛を博した。今年から一部新しいメンバーを迎えた彼等の、ますますハイレベルでフレッシュな演奏が期待される。



フランツ・ズィーゲルト

Franz Siegert, 1st Violin

ドレスデンに生まれる。ウィーン国立音楽大学にてクリスチャン・アルテンブルガーに師事し、2009年同大学院修士課程を最優秀で修了。2008年よりG. マーラー青少年オーケストラのコンサートマスターを務め、またバイエルン国立歌劇場及びバイエルン国立オーケストラ、ロンドンフィルのゲストコンサートマスターを務める他、ウィーン国立歌劇場、ウィーンフィルでも演奏する。2009年よりウィーン放送交響楽団コンサートマスターを務める。



スティーヴン・モーラー

Steven Mohler, 2nd Violin

アリゾナ大学、カルフォルニア大学を卒業後、ウィーン国立音楽大学にてクラウス・メッツル、ギュンター・ビヒラー両教授に師事。ビクトリア交響楽団(カナダ)、ピアチェンツァ交響楽団(イタリア)のコンサートマスター、またハイデルベルグ市交響楽団、ウィーン室内管弦楽団を経て、現在ウィーン放送交響楽団の第2ヴァイオリン首席代理を務める。また、ウィーン九重奏団の一員として室内楽でも活躍。



トーマス・ブンバル

Tomas Bumbal, Viola

ブラティスラヴァに生まれる。5歳よりヴァイオリンを始め、ブラティスラヴァ音楽院を経て、2003年ウィーン国立音楽大学を最優秀で卒業。ヴァイオリンをフランツ・サモイ、ヴィオラをハンス＝ペーター・オクセンホーファーに師事。2003年よりウィーン放送交響楽団の首席代理を務める。また平行して室内楽の活動も精力的に行っている。



ティル・シュスラー

Till Schüssler, Violoncello

ケルン国立音楽大学にてクルト・ヘルツブルッフ、ウィーン国立音楽大学にてバレンティン・エルベン両教授に師事。その間、室内楽をアマデウス・カルテット、アルバン・ベルグ・カルテットに師事。ウィーン室内管弦楽団首席を経て、現在ウィーン放送交響楽団の首席チェロ奏者を務める傍ら、マスタークラスなどで後進の指導にも当たっている。